

特別支援学級算数科学習指導案

自閉症・情緒障害特別支援学級（あすなろ学級） 5人（1年2人，2年1人，3年1人，5年1人）

指導者 木原 正晶 支援員 竹崎 雅代

1 単元名 いろいろな時計にチャレンジ！！

2 単元の目標

A児 (1年)	○ 時計に関心を持ち，時刻を読もうとすることができる。 ○ デジタル時計を見て，時刻（時，分）を読もうとすることができる。
B児 (1年)	○ 時計に関心を持ち，時刻を読もうとすることができる。 ○ デジタル時計を見て，時刻（時，分）を読むことができる。
C児 (2年)	○ 日常生活の場面に応じた時刻を読み，生活に生かそうとすることができる。 ○ 単位の関係を理解し，時間や時刻を求めることができる。
D児 (3年)	○ 時計に関心を持ち，時刻を読もうとすることができる。 ○ アナログ時計の長針を手掛かりにして，何分かを読むことができる。
E児 (5年)	○ 乗り物の時刻表を用いるなど，生活の中で時間を活用しようとするすることができる。 ○ 単位の関係を理解し，時から分，分から秒などの単位換算をし，時間や時刻を求める計算をすることができる。

3 単元について

(1) 単元の価値

本学級には5人の子どもたちが在籍している。1年生の二人の子どもたちは，これまでに簡単な数の範囲（1～10）で，身近にある具体的な事物を数えたり，数字を読んだり，書いたりする学習に取り組んできている。また，日常生活の指導や生活単元学習でカレンダーや模型時計を使って日付や日程などを確認する学習を通して，時刻や時間を知り，見通しをもって学校生活を過ごすことができるように取り組んできている。しかし，授業開始時刻に遅れるなど，学校生活の中で時刻や時間をあまり意識せずに行動している様子が見られる。

2年生の子どもは，これまでに学校生活のいろいろな場面で分の単位まで時刻を読むことに取り組んできている。また，模型時計を使い，実際の時刻や指示された時刻に合わせる活動にも取り組んだ。このような学習を通して，「昼休みは〇時〇分までだ。」と時刻を読み，教室へ帰ってくるなど，学習したことを生活に生かすことができるようになってきている。そして，タイマーを使って終了時刻に見通しをもつことで，時間内は活動に集中して取り組むことができるように取り組んでいる。しかし，終了時刻前に活動を止めてしまう様子が見られる。

3年生の子どもは，本年度より本学級に入級してきた。これまで算数の学習を苦手にしてきたが，友達と競い合って輪飾りを作って長さ比べをしたり，自分がデザインした箱作りをしたりするなどの算数的活動を通して，楽しく学習に参加することができるようになってきている。時計については，短針に注目して「今は〇時だよ。」とおおよその時刻を読むことができるが，長針を見て正確な時刻を読み取ることは苦手としている。そのため，学校生活の中では，友達や周りの様子を見て次の行動に移る様子が見られる。

5年生の子どもは，これまでに，時間の単位として，日，時，分，秒について具体的な場面で適切に用いることができるように学習している。そして，「5分で準備をします。」，「かけっこ，10秒でゴールをすぞ。」など時間の感覚をもつことができるようになってきている。しかし，学校生活の中で，開始時刻と終了時刻からその時間を考えたり，ある時刻の〇時間前，〇時間後の時刻を考えたりすることを苦手としていて，担任や友達に尋ねることが多い。

そこで本単元は，「とけいマンからの挑戦状」として，挑戦状に書かれているいろいろな課題を解決していく活動を設定することで，時刻を読むことができるようになりたいという意欲を高めることができるようにする。そして，次の遠足に出かけるために時刻を読むことができるようになるという見通しをもって学習することができるようにする。この学習では，数的基礎概念，長針・短針の弁別，文字盤の数字の配列など時計の仕組みの理解，5とびの数え方，60進法による

数概念など、多くの内容が相互に関連しているために様々な困難さを示す内容である。よって、算数での系統的な指導を通して基礎となる力を付け、それを生活単元学習や日常生活の場面で使ってみようという意欲をもつための学習として本単元を設定した。

指導に当たっては、生活単元学習「合同遠足に出かけよう」と関連させて学習に取り組んでいくことで、学習したことを生活に生かそうとする態度を育むことができるようにする。まず、教師が演じるバスに乗り遅れたり、テレビ番組を見逃したりした動画や写真を提示することで、時刻を読まずに失敗したことなどを思い出し、うまく時刻を読むことの必要性や良さを感じることができるようになる。それから、合同遠足の様子を写真で提示することで、子どもたちが生活の中で時計を読むことができているかを振り返ることができるようにする。そして、三学期に「なかよし作品展」に出掛けるという目標を設定することで、バスや電車に乗るために時刻を読むことの必要性や明確な目的意識をもつことができるようにする。次に、「好きなテレビ番組表作り」で自分の好きな番組の時刻を確認したり、身近にある時間調べや5とびジャンプなど、身近な題材や体を使った学習などを設定したり、自分だけの時計作りをしたりすることで、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。次に、個に応じた学習課題を準備することで、個別の学習を充実させることができるようにする。1年生は、スモールステップによる60までの数の学習をすることで、デジタル時計を読むことができるようにする。2年生は、模型時計や長針や短針を操作することのできるデジタルコンテンツを使った学習を繰り返すことで、時間への理解を深め、時間を求めることができるようにする。さらに、日課表に着目させることで、午前や午後の言葉の意味を知り理解すると共に、24時間制で時刻を表すことができるようにする。3年生は、短針を抜いた長針だけの時計の目盛りを調べるという活動をするすることで、時計の仕組みに気付き、時刻を読むことができるようにする。5年生は、模型時計や長針や短針を操作することのできるデジタルコンテンツを使った学習を繰り返したり、時計の文字盤の目盛りを帯時計に表したりする算数的活動に取り組んだりすることで、時間への理解を深め、1日=24時間、1時間=60分、1分=60秒の関係を理解し、単位換算することができるようにする。さらに、あすなろ学級のリーダーとして次の遠足の計画を立てる活動を取り入れることで、バスや電車の時刻表を活用し、出発の時刻や到着までに掛かる時間を調べることができるようにする。そして、個別学習の後は学級全員で一つの課題に向かう集団での学習を設定することで、個別の活動では味わえない、より大きな達成感や充実感を味わうことができるようにする。

このような学習を通して、開始時刻に間に合うように行動への見通しをもったり、所要時間をもとに終了時刻を考えたりすることで、時間管理や公共の交通機関の利用などができるようになっていくものとする。さらには、このことが成功体験を増やし、自己肯定感を育んだり生活を豊かにしたりすると共に、自立や社会参加につながっていくものとする。

(2) 子どもの実態

	単元に関する教育的ニーズ	算数科に関すること	単元に関する生活経験
A児 1年男子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 から 12 までの数を読んだり、書いたり、順番に並べたりすることができること。 ○ デジタル時計を見て、時刻（時）を読めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 までの数は、数えたり順番に並べたりすることができるようになってきている。 ・ 4 を「しち」と言ったり、7 を抜かしたりして数え間違いをすることがある。 ・ 10 までの数を順唱はできるが、逆唱になると曖昧である。 ・ 平仮名を見て1 から 3 までの数字を書くことはできる。 ・ 足す数、足される数が5 までのたし算は、自分の指を使って計算することができるようになってきている。 ・ 二本の鉛筆の長さを比べて、「長い」、「短い」を判断したり、自分のかばんと友達のかばんを比べて、「重い」、「軽い」と判断したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時計を見たり、時刻を意識したりする様子はあまり見られない。そのために、始業2、3 分前に外に遊びに行こうとしたり、授業が始まった後、一人校庭に残って、次の行動に切り替えることができなかつたりすることもある。
B児 1年男子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 から 60 までの数を読んだり、書いたり、順番に並べたりすることができること。 ○ デジタル時計を見て、時刻（時、分）を読めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 から 30 までは、数を数えたり順番に並べたりすることができるようになってきている。 ・ 平仮名を見て、1 から 10 までの数字を書くことができる。 ・ 答えが 10 までのたし算は、指を使って計算することができる。 ・ アナログ時計の文字盤を見て、1 から 12 までの数字を読むことができる。 ・ 丸、三角、四角と言う言葉を知っており、おおよそその特徴が分かり、それらを書くことができる。また、それらの形を組み合わせせて絵を描くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が「休み時間は9 までだよ。」「5 から給食だよ。」と時計を見て指示を出すことで、開始時刻や終了時刻を確認することができるようになりつつある。
C児 2年男子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 午前、午後を付けて時刻を読めること。 ○ 24 時間制の時刻を読めること。 ○ 二つの時刻から時間を、求められること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の中で必要な数を数えたり、数字を読んだり、書いたりすることが好きである。 ・ 1000 までの数の読み方や書き方が分かり、大きさを比べることができる。 ・ 「3 桁+ 3 桁」、「3 桁- 3 桁」の計算ができ、かけ算九九にも興味をもっている。 ・ アナログ時計を読むことができる。また、模型時計を現在の時刻に合わせたり、指示された時刻に合わせたりすることができる。 ・ 秤を使って身近にあるもの（鉛筆、教科書など）の重さを量ることに興味がある。 ・ 買い物などをするとき、支払いに必要なお金の計算することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の会や帰りの会の前に、教師が、「開始時刻は○時で、終了時刻は○時だよ。○分間あるんだよ。」と伝えることで、見通しをもって学習等に参加することができるようになってきている。 ・ タイマーを使って遊ぶことが好きである。

D児 3年男子	<ul style="list-style-type: none"> ○ アナログ時計を見て、時刻を読めること。 ○ 午前、午後を付けて時刻を読めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10000 までの数を数えたり、読んだり、書いたりすることができる。 ・ 「3桁+3桁」の計算ができる。 ・ 「2桁-1桁」の繰り下がりのある計算は、ブロックを使って計算することができる。 ・ 1, 2, 5の段のかけ算九九を言うことができる。 ・ アナログ時計の文字盤を見て、短針に注目し、おおよそ〇時までは読むことができる。しかし、長針を見て、〇分を読むことはできない。 ・ 操作活動をする際には失敗を嫌がり、うまくいかないときには学習意欲をなくしてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「お母さんと時計を読む練習をしたよ。」と話してくることがある。家庭や、毎日の日常生活の指導の中で、少しずつ時計を見たり、時刻を気にして行動したりするようになってきている。
E児 5年男子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「1日=24時間」、「1時間=60分」、「1分=60秒」の単位の関係が分かり、単位換算ができること。 ○ 計算をして時刻や時間を求められること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1億までの数を読んだり、書いたり、大きさを比べたりすることができる。 ・ 小数のかけ算やわり算の計算ができる。 ・ 長さ、重さを表す単位が分かり、ものさしやはかりを使って測定することができる。 ・ 三角定規やコンパスなどを使って、図形を書くことが苦手である。 ・ アナログ時計で時刻を読むことができる。また、午前や午後を付けて時刻を表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊学習や遠足の前には、カレンダーやしおりを使って、日時、日程などを細かく確認している。しかし、時間や内容などの変更を嫌がり、泣いたり、怒ったりすることもある。

4 指導に当たって

○ 「自分事の問い」をもたせる教材・教具【しかけ1】

- ・ 「とけいマンからの挑戦状」を提示し、本時のめあてを捉えることができることで、学習の見通しをもち、意欲をもって学習に取り組むことができるようにする。
- ・ 「とけい名人トレーニング」で百玉そろばんを使っての数唱（順唱、逆唱、2とび、5とび、数の合成など）をしたり、床に大型時計を描いて5とびジャンプなどを毎時間取り組んでいたりすることで、集中力を持続し、楽しみながら数概念の定着を図っていくことができるようにする。
- ・ 個に応じたデジタルコンテンツを準備して取り組ませることで、自分のめあてを意識しながら繰り返し学習を進めていくことができるようにする。

○ 「自分事の問い」につなげる発問【しかけ2】

- ・ 「『とけいマンからの挑戦状』をクリアするために、今日は何を頑張ればいいのか。」という発問をすることで、本時の個人のめあてを明確にすることができるようにする。

○ 「自分事の問い」をふかめる場【しかけ3】

- ・ 「とけいマンからの挑戦状」にみんなで力を合わせて取り組み、それぞれの考えを知ったり、参考にしたりする活動を繰り返すことで、自分や友達の考えのよさに気付いたり、自分の新たな考えを生み出したりすることができるようにする。

○ 「自分事の問い」をひろげる連携【しかけ4】

- ・ 朝の会などの日常生活の指導や、その他の教科領域等における活動の中において、本時の学習内容を活用する場面を設定することで、学んだことを生かすことができるようにする。
- ・ 連絡帳で本時の学習内容や学習中の様子などを家庭に伝えることで、家庭でも学習したことを話題にして生かそうとしたり、頑張りを称賛されることで学習意欲を高めたりすることができるようにする。

5 指導計画（総時数 10 時間）

次	時間	指導のねらいと主な活動内容				自分事の問い
		A・B児	C児	D児	E児	
一 次	1	【指導のねらい】 ○ 身近にある時刻を読もうとする意欲と今後の学習への見通しをもつことができる。	【指導のねらい】 ○ 身近にある時刻を読み、時間を意識しようとする意欲と今後の学習への見通しをもつことができる。	【指導のねらい】 ○ 身近にある時刻を読もうとする意欲と今後の学習への見通しをもつことができる。	【指導のねらい】 ○ 身近にある時刻を読み、時間を意識して行動しようとする意欲と今後の学習への見通しをもつことができる。	バス停には、時刻表があったぞ。動物園には、大きな時計があったぞ。【全児童】
		【活動内容】 1 バスに乗り遅れたり、テレビ番組を見逃したりしているVTRを見て、時刻を読まない困ることについて話し合う。 2 遠足の様子の写真を見て、自分たちが時刻を読んでいるか話し合う。 3 「とけいマンからの挑戦状」を知る。 4 デジタル時計やアナログ時計の時刻を読んだり、身近にある時刻や時間に関するものを探したりする。 <ul style="list-style-type: none"> アナログ時計やデジタル時計のいろいろな時刻を読むクイズに挑戦する。 自分の好きなテレビ番組の放送時刻を読み、「好きなテレビ番組表」を作る。 「この時間分かるかな？」クイズに取り組み、時間が表示してある身の回りのものを見付ける。 				時刻を読めるようになりたいな。【全児童】
二 次	2	【指導のねらい】 ○ アナログ時計を作ること、時計を見ることに興味をもつことができる。	【指導のねらい】 ○ アナログ時計を作ること、短針、長針、文字盤の数、目盛りの存在を確認することができる。	【指導のねらい】 ○ アナログ時計を作ること、短針、長針、文字盤の数、目盛りの存在に気付くことができる。	【指導のねらい】 ○ アナログ時計を作ること、短針、長針、文字盤の数、目盛りの存在に気付くことができる。	時計は、こんな風にできているんだ。【A・B・C・D児】
	3	【指導のねらい】 ○ デジタル時計の分を表す数字のみを見て、0～10分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 〇分前、〇分後の時刻を実際に時計を操作しながら、求めることができる。	【指導のねらい】 ○ 長針だけの時計で、目盛を数えて、0～20分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 〇分前、〇分後の時刻を実際に時計を操作しながら、求めることができる。	バスに乗っている時間は何分あるかな。【E児】
	4	【指導のねらい】 ○ デジタル時計の分を表す数字のみを見て、0～20分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 同一時の中で、二つの時刻の間が何分かを実際に時計を操作しながら、求めることができる。	【指導のねらい】 ○ 長針だけの時計で、目盛を数えて、0～40分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 同一時の中で、二つの時刻の間が何分かを実際に時計を操作しながら、求めることができる。	時刻を読んだり、時間を考えたりするには、こんな学習をすればいいな。【全児童】
	5 (本時)	【指導のねらい】 ○ デジタル時計の分を表す数字のみを見て、0～20分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 同一時の中で、二つの時刻の間が何分かを実際に時計を操作しながら、求めることができる。	【指導のねらい】 ○ 長針だけの時計で、目盛を数えて、0～59分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 二つの時刻から、時間が何分かを実際に時計を操作しながら、求めることができる。	

	6	【指導のねらい】 ○ デジタル時計の分を表す数字のみを見て、0～40分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 二つの時刻から、時間が何分かを実際に時計を操作しながら、求めることができる。	【指導のねらい】 ○ 長針だけの時計で、文字盤の数字を手掛かりに、0～20分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 同一時の中で、二つの時刻の間が何分かを計算によって求めることができる。		
	7	【指導のねらい】 ○ デジタル時計の分を表す数字のみを見て、0～40分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 二つの時刻から、時間が何分かを実際に時計を操作しながら、求めることができる。	【指導のねらい】 ○ 長針だけの時計で、文字盤の数字を手掛かりに、0～40分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 二つの時刻から、時間が何分かを計算によって求めることができる。	時刻には、午前と午後があるんだな。【C児】	
	8	【指導のねらい】 ○ デジタル時計の分を表す数字のみを見て、0～60分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 午前、午後を使い分けて、時刻を読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 長針だけの時計で、文字盤の数字を手掛かりに、0～59分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ アナログ時計やストップウォッチを見て、何秒か読むことができる。	時間にはいろいろな単位があるんだな。【E児】	
	9	【指導のねらい】 ○ デジタル時計の分を表す数字のみを見て、0～60分までを読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 午後の時刻と13～24時までの時刻を対応できるとともに、24時間制の時刻を読むことができる。	【指導のねらい】 ○ アナログ時計を見て、長針に着目し、文字盤の数字を手がかりに、何分か読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 「1日＝24時間」、「1時間＝60分」、「1分＝60秒」の関係を使って、単位換算をすることができる。	文字盤の数字は5とびになっているぞ。それを使って時刻を読もう。【D児】	
【活動内容】 1 「とけいマンからの挑戦状」を確認し、自分のめあてを考える。 2 とけい名人トレーニングに取り組む。 3 それぞれの課題に取り組む。 4 みんなで「とけいマンクイズ」の課題に取り組む。 5 次の学習を知る。							アナログ時計の時刻も読むことができるようになりたいな。【A・B児】
三 次	10	【指導のねらい】 ○ 仲良し作品展見学のしおりにあるデジタル時計の活動予定時刻を読むことができる。	【指導のねらい】 ○ 仲良し作品展見学のしおりにある二つの活動予定時刻から、その間の時間を求めることができる。	【指導のねらい】 ○ 仲良し作品展見学のしおりにあるアナログ時計の活動予定時刻を読むことができる。	【指導のねらい】 ○ バスや電車の時刻表を活用して、仲良し作品展見学の計画表を作ることができる。	うまく時刻を読んだり、時間を求めたりしたいな。 【全児童】	
	【活動内容】 1 「とけいマンからの最後の挑戦状」を確認する。 2 それぞれの課題に取り組む。 3 みんなで挑戦状の課題に取り組む。 4 挑戦に成功したら、「あすなるウォッチ」をもらう。						

6 本 時 (5 / 10)

(1) 目 標

○ 時計に関心を持ち、数や時刻を読むことや、時間を求めることができる。

個人目標	A児	デジタル時計の分を表す数字を見て、0から20分までを読むことができる。
	B児	デジタル時計の分を表す数字を見て、0から30分までを読むことができる。
	C児	二つの時刻(同一時)から、時間が何分かを具体的操作によって求めることができる。
	D児	長針だけの時計で、目盛を数えて、0から59分までを読むことができる。
	E児	二つの時刻(1時間を超える)から、時間が何分かを具体的操作によって求めることができる。

(2) 展 開

○数字は、「自分事の問い」に対するしかけ (①教材・教具 ②発問 ③場 ④連携) ☆はICT活用の留意点 は「自分事の問い」

過程 (分)	主な学習活動	子どもに応じた具体的な指導				
		A児	B児	D児	C児	E児
つかむ・見通す (10)	1 前時の学習を振り返る。  もっと時刻を上手に読みたいな。	① 前時まで学習した内容で読める時刻を提示することで、これまでの活動を想起することができるようにする。	① 00から10までのデジタル時計の数字を読むことで、前時まで学習を想起することができるようにする。	① 時計の目盛りを数えることで、前時までの学習を想起することができるようにする。	② 「算数の授業は何時から何時までですか。」と問い、模型時計を操作させることで、前時までの学習を想起することができるようにする。	
	2 本時のめあてを確認する。 「とけいマンからのちょうせん状3」に、チャレンジしよう。 (1) めあてを声に出して読む。 (2) 個人のめあてを考える。 (3) 個人のめあてをワークシートに書く。	① 「とけいマンからの挑戦状3」を提示することで、本時の学習への意欲と見通しをもつことができるようにする。 ② もっと上手に時計を読んだり、時間を求めたりするには何が足りないか尋ねることで、個人のめあてを考えることができるようにする。	○ 10よりも大きい数字のデジタル時計の数字を提示することで、個人のめあてを考えることができるようにする。	○ 40分よりも進んだ時刻を提示することで、個人のめあてを考えることができるようにする。	○ これまでよりも長い時間の問題を提示することで、個人のめあてを考えることができるようにする。	
活動する (30)	3 活動への見通しをもつ。	① 「今日の学習ボード」に学習の順番を提示することで、見通しをもって学習を進めることができるようにする。	① 百玉そろばんを活用することで、時計を読むことに必要な数概念を定着させることができるようにする。	③ 体を動かす活動を取り入れることで、飽きることなく学習に取り組むことができるようにする。	① ☆ 個に応じたデジタルコンテンツを準備して取り組ませることで、自分のめあてを意識しながら繰り返し学習を進めていくことができるようにする。	
	4 とけい名人トレーニングをする。 (1) 百玉そろばんの数え方。 ・順唱 ・逆唱 ・2とび ・5とび (2) 5とびジャンプをする。	① 0から始まるデジタルコンテンツを使って数を数える活動を行うことで、学習への抵抗感を少なくし、デジタル時計の分を表す数字を20まで読むことができるようにする。	① 0から始まるデジタルコンテンツを使って数を数える活動を行うことで、学習への抵抗感を少なくし、デジタル時計の分を表す数字を30まで読むことができるようにする。	① 1分ごとの目盛りが入った、短針を抜いた長針だけの時計のデジタルコンテンツを使って目盛りを数える活動を行うことで、0から59分までの時刻を読むことができるようにする。	① 時計の短針と長針を動かすことができるデジタルコンテンツを使って操作活動を繰り返すことで、同一時の時間の長さを捉えることができるようにする。	① 時計の短針と長針を動かすことができるデジタルコンテンツを使って操作活動を繰り返すことで、1時間を超える時間の長さを捉えることができるようにする。
振り返る (5)	5 それぞれの学習に取り組む。  この学習をすると、もっと上手に時刻を読めるようになりそうだ。	③ 「とけいマンクイズ」を提示し、それぞれの実態にあった課題に協力して取り組むことで、学習の成果を実感したり、「学び合い」のよさを感じたりすることができるようにする。	④ 本時の学習を生かして生活場面に即した活動に取り組ませることで、日常生活の中で生かそうとする意欲を高めることができるようにする。	② 「今日の学習で、できるようになったことはどんなことですか。」と発問することで、今日の自分の頑張りに気付くことができるようにする。	① 「とけいマンからのメッセージ」を提示することで、次時の学習内容の見通しをもち、次も頑張りたいという意欲を高めることができるようにする。	
	6 本時の学習を生かして、「とけいマンクイズ」にみんなで取り組む。  さっき練習したことを使って頑張るぞ。	7 本時の学習を振り返る。 ・自分の頑張ったところやできるようになったことを発表する。	8 次時の学習について知る。  もっといろんな時刻を読むぞ。			